

## ■□ メリケン波止場のあゆみ



明治中期



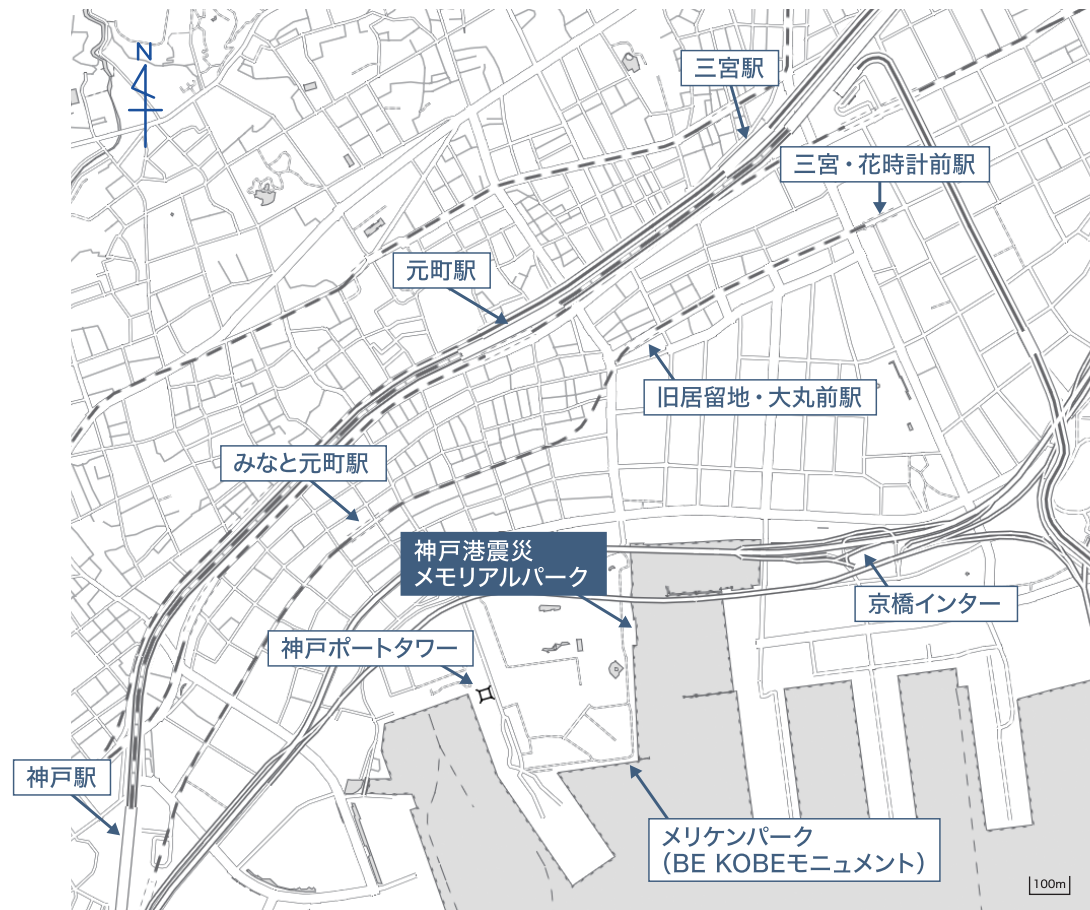
明治末期



1929年(昭和4年)ごろ

1868年1月1日(慶応3年12月7日)神戸港開港に続き、1868年5月23日(慶応4年閏4月2日)、鯉川の河口に長さ18.2m、幅10.9mの小さな波止場がつけられ、第三波止場と名づけられました。近くにアメリカ領事館があったため、通称「アメリカ領事館前波止場」とよばれ、それがなまって「メリケン波止場」になりました。「萬國波止場」とよばれた時期もあり、波止場の陸側入り口にある碑には、「萬國波止場」と刻まれています。この波止場と中突堤間の約16haをうめ立て、1987(昭和62)年に「メリケンパーク」がオープンしました。

## ■□ 案内図



出典：国土地理院ウェブサイト (maps.gsi.go.jp/vector)

# 神戸港震災メモリアルパーク

## 2025.01 展示リニューアル



平成7(1995)年1月17日、明石海峡付近を震源地とするマグニチュード7.3の兵庫県南部地震が発生しました。神戸港震災メモリアルパークは、メリケン波止場の岸壁の一部(約60m)を被災したままの状態で見守るとともに、神戸港の被災状況やその復興の過程を中心に、大震災の教訓と港の重要性、さらに国内外の多くの人々が一体となって港の復旧、復興に努めた様子を後世に伝えることを目的として、平成9(1997)年7月に作られました。震災30年となる令和7(2025)年1月に、整備当時のコンセプトを継承しながら、展示をリニューアルしました。

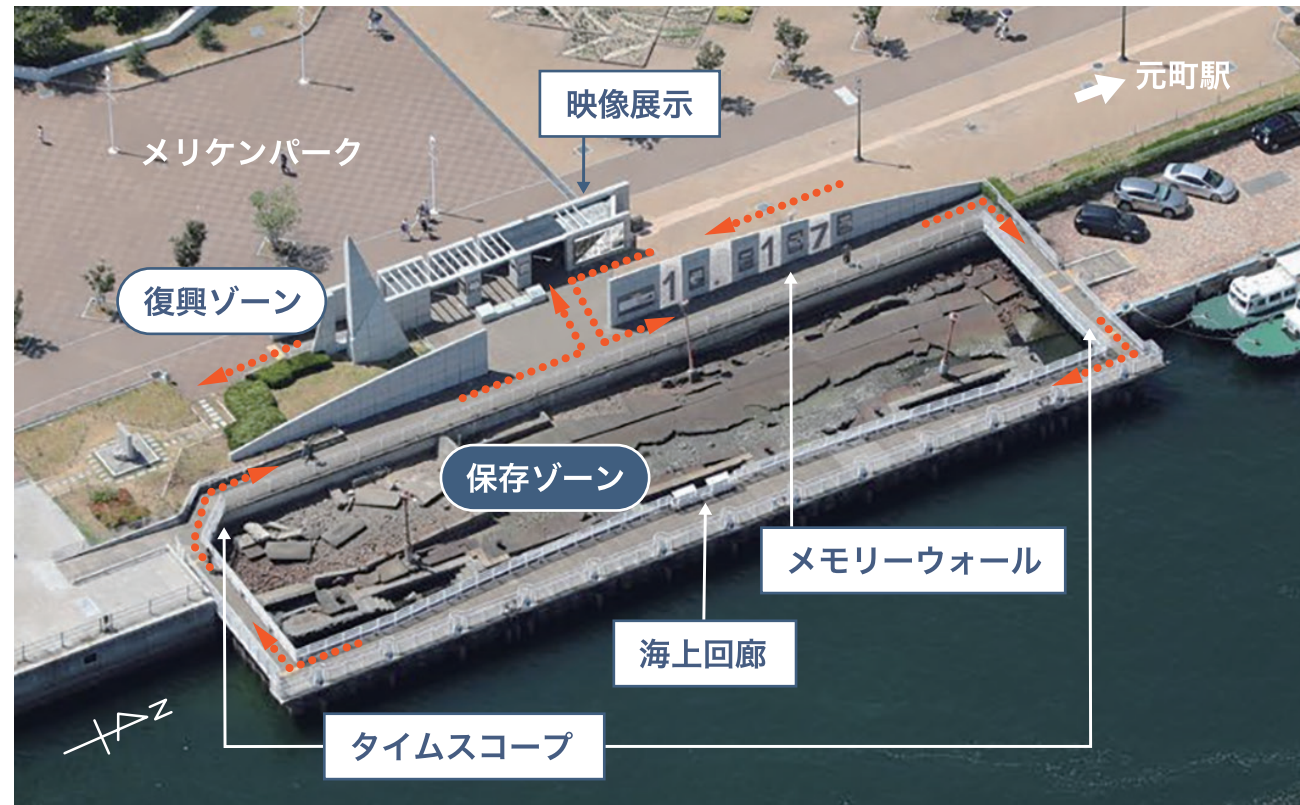
### BE KOBE

## 震災30年を 未来につなぐ

住所 神戸市中央区波止場町2  
 アクセス JR・阪神「元町駅」より徒歩10分  
 「三宮駅前」バス停よりPort Loop・City Loop線で「メリケンパーク」バス停下車すぐ  
 開園時間 常時開園  
 料金 無料



## ■ 展示構成



.....▶ 推奨順路

### 保存ゾーン

神戸港の被害の大きさを目で見える形で残し、被災状況を伝えています。

震災のおこった事実と時間等をデザイン化して、このメモリアルパークの意義を紹介する碑、メリケン波止場の被災部の一部を保存、回遊しながら見学する海上回廊を設け、港湾の被災状況の生々しさを体験することができます。

### 復興ゾーン

神戸港の震災が与えた影響の大きさを、写真や映像などを利用して伝えるとともに、復興の過程を紹介しています。震災時に港が果たした役割、震災から復興への道のり、さらには現在そして今後の神戸港の姿などから構成されています。

また力強く復興する神戸港の新たな船出を、象徴的な船の帆のモニュメントに表現しています。



## ■ メモリーウォール

震災に思いを馳せるきっかけとして発災した日付「1995.1.17」を象徴的に表現しています。夜には朝焼けの空を想起させるグラフィックが浮かび上がる光の演出が行われます。

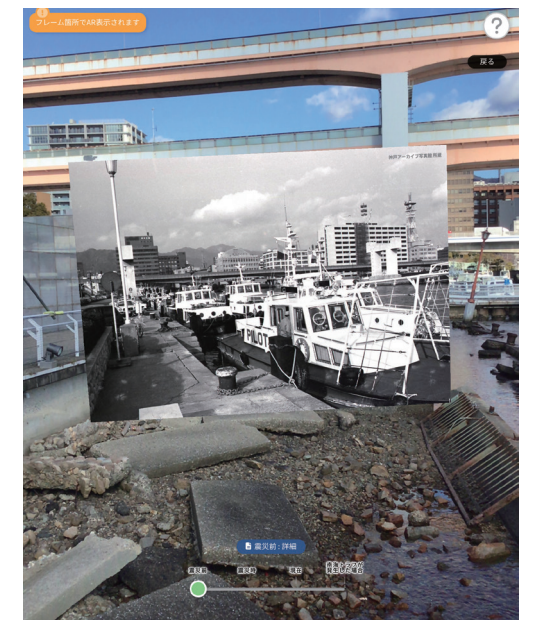


## ■ タイムスコープ (AR)

震災前・震災時・現在の写真をスマートフォン上で見比べることで、震災の被害の大きさを視覚的に感じられるAR(拡張現実)コンテンツです。保存ゾーンにある二次元コードからアクセスすることで、体験できます。またメモリアルパーク周辺8か所でも震災時の様子を見ることができます。



このポイントでスマホをかざすと震災時の写真を見ることができます。



## ■ 映像展示 「震災から2年で復興した神戸港」

阪神・淡路大震災の被害の状況と復旧のようす、2年間で復興した神戸港のすがたを紹介しています。



PART 1



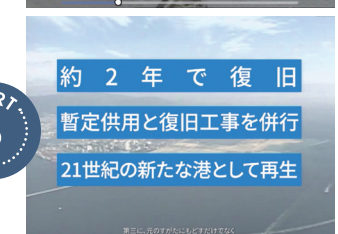
「阪神・淡路大震災」  
(約1分30秒)

PART 2



「神戸港の被害」  
(約3分)

PART 3



「神戸港の復興」  
(約3分)